

平成29年度政府予算案について

平成 29 年度沖縄振興予算（案）について

内閣府沖縄担当部局

平成 29 年度沖縄振興予算（案） 3, 1 5 0 億円

※平成 28 年度予算 3, 3 5 0 億円（対前年度比 △ 2 0 0 億円）

沖縄産業イノベーション創出事業

沖縄への企業誘致、国際物流拠点を活用した先進的なものづくり産業等の創出、生産性を向上させる産業人材の育成等を通じ、産業イノベーションの創出を図る。

1 0 . 6 億円（新規）

沖縄離島活性化推進事業

厳しい自然的社会的条件に置かれている沖縄の離島市町村の先導的な事業を支援。

1 0 . 8 億円（新規）

沖縄子供の貧困緊急対策事業

沖縄の将来を担う子供達の深刻な貧困に関する状況に緊急に対応するため、沖縄の実情を踏まえた支援員の配置や居場所づくりを、モデル的・集中的に実施する。

1 1 . 0 億円（1 0 . 0 億円）

その他の主な事項

公共事業関係経費等：沖縄の観光や日本とアジアを結ぶ物流の発展、県民の暮らしの向上を支える道路や港湾、空港、農林水産振興のために必要な生産基盤などの社会資本の整備とともに、学校施設の耐震化や災害に強い県土づくりなどを実施するため、国直轄事業及び地方公共団体等への補助事業に係る公共事業関係費等を計上。1, 4 2 9 億円（1, 4 2 3 億円）（うち、那覇空港滑走路増設事業 3 3 0 億円を含む。）

沖縄振興一括交付金：沖縄の実情に即してよりの確かつ効果的に施策を展開するため、沖縄振興に資する事業を県が自主的な選択に基づいて実施。1, 3 5 8 億円（1, 6 1 3 億円）（沖縄振興特別推進交付金(ソフト) 6 8 8 億円（8 0 6 億円）、沖縄振興公共投資交付金(ハード) 6 7 0 億円（8 0 7 億円）

沖縄科学技術大学院大学：世界最高水準の教育・研究を行い、イノベーションの国際拠点となるため、新たな研究棟の建設や新規教員の採用など O I S T の規模拡充に向けた取組を支援するとともに、O I S T 等を核とした産学の相互連携システム形成の進展を図る。

1 6 7 億円（1 6 7 億円）

交通環境イノベーション事業推進調査：沖縄の深刻な交通渋滞への取組の一環として、自家用車に過度に依存しない、住民にも観光客にも利用しやすくかつ魅力的な交通環境の創造に向け、自動運転などの最先端技術も活用した戦略的な展開を図るための調査を実施する。

3 . 0 億円（新規）

駐留軍用地跡地利用の推進：平成 2 7 年 3 月末に返還された西普天間住宅地区跡地における国際医療拠点構想の具体化に向けた取組や、拠点返還地跡地利用推進のための交付金（1 0 . 0 億円）を引き続き計上するなど、駐留軍用地の跡地利用の推進を図る。1 2 . 5 億円（1 2 . 5 億円）

北部振興事業：県土の均衡ある発展を図るため、北部地域の連携促進と自立的発展の条件整備として、産業振興や定住条件の整備等を行う北部振興事業を実施。

2 5 . 7 億円（2 5 . 7 億円）

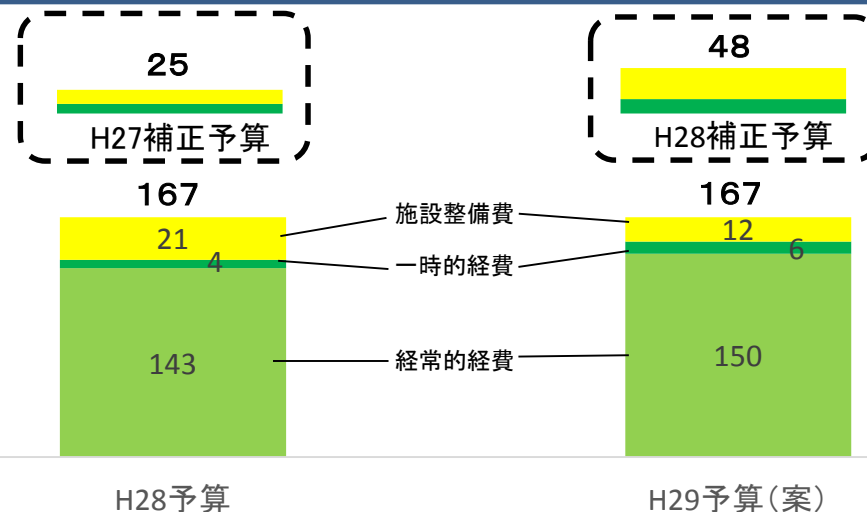
平成29年度OIST関係予算(案)

予算額:167.3億円
(対前年度同額)

- ・研究費等を含む**運営費**は、要求額を満額確保(155.4億円)
- ・**施設整備費**は、H27補正で初年度分を予算措置した第4研究棟の建設費(3年目)を満額確保(11.9億円)

平成29年度予算(案)

	28年度予算	29年度予算(案)
運営費	146.7億円	155.4億円
施設整備費	20.5億円	11.9億円
計	167.3億円	167.3億円

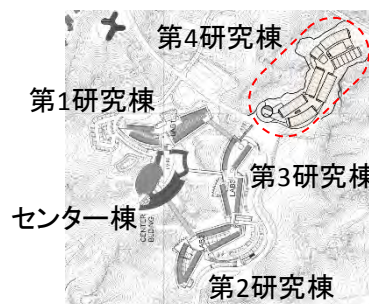


運営費:155.4億円

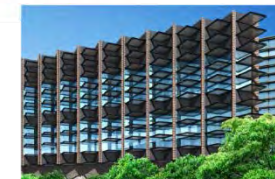
- 経常的経費(149.7億円)・・・学園の運営に必要な経費
 - ・人件費:57.5億円
教員(5名)及びユニットに配属される研究員(15名)の増員等
 - ・機器購入費:23.2億円
新規ユニット立ち上げに必要な機器及び共有研究機器の購入等
 - ・運営費:69.0億円
- 一時的経費(5.7億円)・・・イノベーション・エコシステム形成のための上乗せ経費
 - ・イノベーション・エコシステム形成に向けた関連研究:3.4億円
 - ・特許の実証実験プログラム強化に向けた取組等:2.3億円

施設整備費:11.9億円

- 第4研究棟整備費(9.8億円)
 - ・第4研究棟(4か年度)の3年目の建設費



イメージ



- 基幹・環境整備(2.1億円)
 - ・キャンパス構内の法面補強、緑化・歩道等の整備

沖縄科学技術大学院大学における基礎的な研究の実施など、学園の運営に必要な経費
平成29年度予算（案）においては、教員の増員に伴う経費などを計上

概要

○人件費(57.5億円) : 教員、研究者、事務職員等の人件費

【主な項目】

新たな教員の増員(5名) 約27百万円

新規ユニット(5ユニット)に配属される研究員の増員(15名) 約52百万円

事務職員等の増員(20名) 約49百万円

○機器購入費(23.2億円) : 教育研究の実施に必要な研究機器等の購入費等

【主な項目】

新規ユニット立ち上げ用機器の購入 約945百万円

共有研究機器の購入 約239百万円

研究機器のリース 約417百万円

○運営費(69.0億円) : 研究ユニット運営に必要な経費や光熱水道費など研究を実施するために必要な
その他の経費

【主な項目】

新規研究ユニットの運営費(5ユニット分) 約86百万円

マリンサイエンスステーション設置に伴う増 約90百万円

沖縄科学技術大学院大学学園補助金における一時的な経費

H29(案) : 5.7億円

基礎的研究に特に上乗せして実施する出口志向の研究など、産学の相互連携システム形成の推進を図るため、OISTの最先端基礎研究をベースとした様々なフェーズにおける活動を強化

概要

産学の相互連携システム形成の推進に向けた関連研究の実施

基礎的研究に特に上乗せして実施する出口志向の研究として、新技術創出や近い将来の技術移転の見通しが立てられる研究等として、OISTが対象を選択した以下の分野の研究を実施。

海洋

- ・ 海洋環境観測装置の拡充
- ・ サンゴを中心とした生物共生や環境応答のバイオ産業化に向けたゲノム研究 等

エネルギー

- ・ 波力を活用した安定性の高い海洋発電の開発
- ・ 安定的・効率的な分散電力配電システムの開発及び高効率で低騒音の風量発電システムの試作
- ・ 低コスト・高効率の有機太陽電池の開発 等

先端医療

- ・ 先進医療技術開発分野における物理的研究の推進
- ・ BNCT(ホウ素中性子捕捉治療)の開発及び確立 等

特許の実証実験プログラム強化等産業応用に向けた取組

POC(Proof of Concept) 実証実験の実施

- ・ 低価格太陽電池の製作
- ・ ナノワイヤを用いた高性能ガスセンサー
- ・ アルツハイマー病の治療のためのペプチド
- ・ ナノワイヤを基にしたバイオセンサー
- ・ 廃水処理のための微生物燃料電池
- ・ 高生体適合性セルロースの生体外合成
- ・ レーザー刺激応用したナノ粒子薬物送達システム
- ・ バイオエタノール生産のための微生物燃料電池

○市場調査、起業家トレーニング 等

※POC: 概念実証

出願した特許の内容が産業応用可能かどうか、実証データを追加することで、技術移転の可能性を最大化させる実証実験。

産学の相互連携システム形成推進に資する国際的なワークショップの開催

○国際的なワークショップを開催し、OISTの研究成果を国際的に広く情報発信することにより、OISTの研究成果を活用した共同研究や新技術の創出が加速。

H28補正予算(15.0億円)

・ 事業化に向けて取り組んでいる研究(POCプログラムの対象研究等)を加速化するために、最先端研究機器の購入や研究の拡充・支援等を実施。

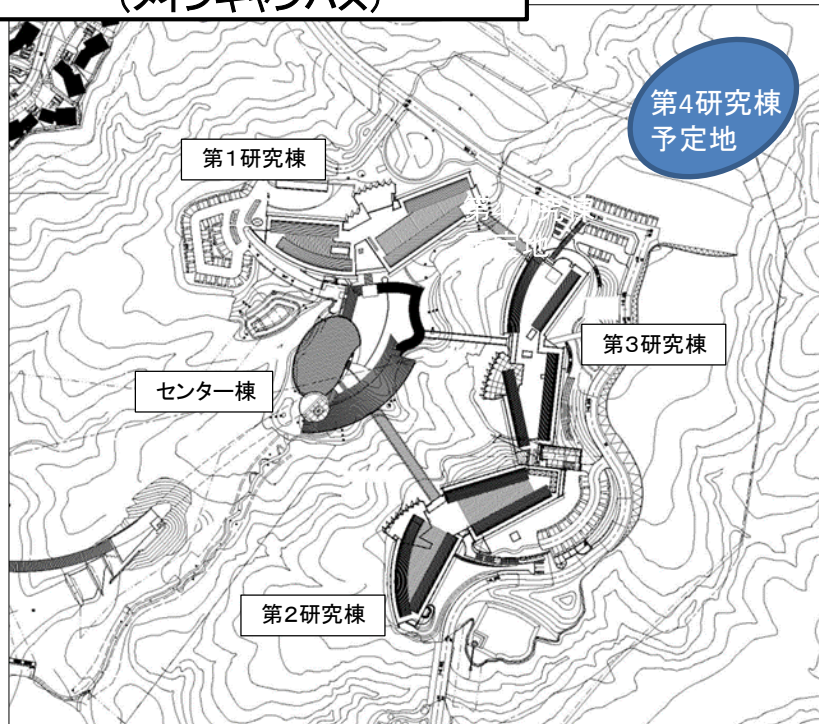
H28補正予算で
取組を加速

沖縄科学技術大学院大学における必要な施設整備に要する経費
平成29年度予算(案)においては、第4研究棟の建設費等を計上

概要

- 第4研究棟建設費(9.8億円)※4年国庫債務負担行為(H27-30)の3年目
 - ・大学の規模拡充に向けたキャンパス整備のため、新たな研究棟(第4研究棟)を建設(第4研究棟の整備に必要な土地造成(構内道路、埋設配管、変電施設などのインフラ整備を含む)を含む)
- 基幹・環境整備(2.1億円)
 - キャンパス構内の法面補強、緑化・歩道等の整備

【参考】OIST施設整備イメージ (メインキャンパス)



H28補正予算(33.2億円)

- ・研究開発の基となる基礎研究・学術研究のための研究施設(第4研究棟)整備の加速化(30億円)
※総事業費 : 113.2億円※H27年度からH30年度までの4年間の事業を設定



第4研究棟(完成イメージ)

- ・世界最高水準の研究を行うための人材確保等に必要の魅力ある教育研究環境(保育施設)の整備(3.2億円)
※既存の保育施設※の拡張



(現在の施設の外観)

H28補正予算で
加速化